

## 第1回豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会

○日 時：平成28年（2016年）7月4日（月）18時30分～20時30分

○場 所：とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ 視聴覚室

○出席者：石川路子委員、高橋一夫委員、吉村直樹委員、水垣学委員、古川圭子委員、勝正雄委員、  
畑中啓司委員 計7名

○欠席者：山下香委員 計1名

○傍聴者：2名

### 【案件】

1. 会長の選出について
2. 総合戦略の進捗状況の検証等の諮問について
3. 総合戦略の進捗状況の検証について（審議）
4. 総合戦略の具体的施策への意見について（審議）
5. その他

### 【資料】

- |       |                                    |
|-------|------------------------------------|
| 資料1   | 総合戦略委員会に係る規則等について                  |
| 資料2   | 委員名簿                               |
| 資料3-1 | 総合戦略 基本目標・具体的施策のKPIの進捗状況について       |
| 資料3-2 | 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金に係る事業実態結果について  |
| 資料3-3 | 平成28年度 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関連する事業   |
| 資料4   | 総合戦略の重点取組項目「まちの拠点整備」について           |
| 参考1   | 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況の検証等の諮問書の写し |
| 参考2   | 豊中市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン               |
| 参考3   | 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略                 |

## 【議事概要】

### ●開会

### ●田中副市長挨拶

### ●案件、資料の説明

(事務局から説明)

### ●委員会の所掌等の説明、会議の公開の説明

#### 委員紹介、事務局紹介

(事務局から説明)

資料：資料1「総合戦略委員会に係る規則等について」

### ●成立要件の確認

事務局 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会規則第6条第2項の規定により、委員の過半数の出席を必要としますが、本日は委員総数8名中、7名の委員の出席をいただいておりますので、成立要件を満たしております。

### ●案件1 会長等の選出について

(豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会規則第5条第2項の規定により、会長を委員の互選により決定)

会長・・・高橋委員

(豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会規則第5条第4項の規定により、会長職務代理者を会長の指名により決定)

会長職務代理・・・石川委員

### ●案件2 総合戦略の進捗状況の検証等の諮問について

### ●案件3 総合戦略の進捗状況の検証について

(事務局から説明)

資料：【資料3-1】総合戦略 基本目標・具体的施策のKPIの進捗状況について

【資料3-2】地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金に係る事業実態結果について

【資料3-3】平成28年度 豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関連する事業

委員 資料3-1「基本目標(1)ア③南部地域プロジェクト」では、まちなみに愛着と誇りを持つと感じている人の割合(南部)をKPIにしていますが、他の地域のデータはありますか。データがあれば、千里中央など他の地域の数値はどうなっているか教えてください。

事務局 都市計画マスタープランの7地域ごとに分析をしています。南部地域につきましては、46.5%と唯一50%を下回っている地域となっています。市全体の平均が63.5%、一番高いところ

は千里中央がある北東部が 73.7%となっています。

委員 資料 3-1「基本目標（1）イ①「良好な住環境を次世代につなぐ」のKPIに住み続けたいと感じている市民の割合があります。83.5%と高い数値になっていますが、市民にどのような手法でアンケートをとられたのでしょうか。また、住み続けたくないと答えた方の意見はありますか。

事務局 現在お住まいの地域に住み続けたいと思いますかという質問項目で聞いています。それに対して、「これからもずっと住み続けたい」や「できれば住み続けたい」といった内容の選択から選んでいただいています。

会長 今の質問については、住み続けたくないと回答された方に対して、なぜですかというフォローができれば、それが課題につながるだろうという指摘だと思います。住み続けたくない理由について、調査はされているのでしょうか。

事務局 別途実施しました豊中市まちづくりのための市民意識調査では、市外に移住するかもしれないと回答された方に、理由を選択肢で設けて回答していただいています。

会長 今手元にその回答結果はお持ちですか。

事務局 今集計結果はありませんが、防犯・防災に不安を抱えているといった回答や、先ほど出ましたまちの景観への愛着の低さなどが挙げられていました。

事務局 少し補足させていただきます。住み続けたいと感じている市民の割合が 83.5%となっていますが、これは 2 年に 1 度 8,000 人の市在住の方を対象に市民意識調査を実施しているものです。住み続けたくないという回答の方の要因分析はまだしっかりできていないところですが、とよなか都市創造研究所では、移動要因調査、転出者と転入者の方にアンケートを実施しました。その中で、転出者からは、防犯・防災や、緑、近所づきあいや、コミュニティに課題があるものと理由が挙げられていました。

委員 住み続けたいと感じている市民の割合についても、地域ごとの数値はとられていますか。

事務局 西部が、一番数字が低くなっており、その次が南部 70.8%となっています。一番高いところは、北東部 83.5%です。

委員 こういった数値からも南部地域に住み続けたくないとさせるなにか課題があるのかもしれませんが。

会長 豊中市において、防犯・防災についてマイナスがでてくるといったことが信じられなかったのですが、地区によって差があるということなのでしょう。

委員 特殊要因ですが、平成 27 年 11 月にオープンしたエキスポシティが今年の 5 月で、来場者数 1,400 万人を突破したということがあります。正確な数値を把握していませんが、2 割程度はモノレールを使われていると聞いています。千里中央駅の利用者増の要因ともなりますので、まちの拠点整備・千里中央地区プロジェクトの乗降客数（北大阪急行電鉄・大阪モノレール「千里中央駅」）について、策定期間の数値に時点修正されてはどうかと思います。ひとのにぎわいができているということで、もう少し強めの数字をだしてもいいのではないのでしょうか。

委員 全体をみた印象として、高い目標に対して、順調に取組を進めてきていると思います。しかし、今、日本全体でも話題になっている待機児童数について、豊中市においても高い数字となっており、ニュースなどにも取り上げられ、豊中市のイメージを悪くしてしまっています。行政として、5 年間での目標設定をすることはわかりませんが、当事者の立場に立てば、喫緊

の問題であり、待機児童の問題が解決されないのであれば、人口の流出につながる問題となります。保護者の方にとっては、待機児童など子どもに関わる事業については、先の目標を立てるよりも、今年達成することができるかということが重要になってくると思います。

委員 待機児童が多いのは、整備する場所がないという問題だけなのでしょうか。保育士不足などもあるのでしょうか。

事務局 一つの事例として、特区を活用した都市公園内での保育所施設の整備を進めていますが、やはり保育所を整備する場所というのが大きな課題となっています。

委員 全国的に同様の課題を抱えているのでしょうか。

事務局 全国というよりも豊中市的な課題であります。豊中市は近年社会増が続いています。特に45歳未満の子育て世帯が移り住んできていただいています。それに伴い保育ニーズが高まってきていることがあげられます。

もう一つ待機児童が増えた理由としまして、平成27年度から子ども・子育て支援新制度が始まり、待機児童のカウント方法の変更があり、保育所利用の基準が緩和されたことが影響しています。

委員 昨年度総合戦略を策定するにあたっては、人口をどうしていくかというところから、議論が始まりました。策定された総合戦略を見ていると総花的でいいまちをつくろうという内容になっています。いいまちをつくるということと、人口を増やすということは、若干ニュアンスが異なりますし、実施する施策も変わってくると思います。今現在の総合戦略の考え方は、当初の人口をどうしていくかというところから変わっているのでしょうか。

委員 いいまちをつくりたいということは、人口を減らさない、流出させないという意味合いもあるのでしょうか。

事務局 平成52年度人口38万人という目標は変わっていません。この人口目標を達成するために、様々な施策を進めていきます。

委員 平成52年度に人口38万人を達成するための施策を実施していくと理解してよろしいのでしょうか。

事務局 中長期的には、人口減少していくなかで、豊中市としては、活性化を行い、人口減少に歯止めをかけたいと考えています。

委員 総合戦略の議論のスタートは人口ですか。

事務局 人口です。人口を増やすというよりは、歯止めをかけるという表現をしています。そのためには、いいまちに、豊中市の魅力を高めていくことが重要であると考えています。

委員 豊中市以外に、いいまちだなど思うところでも、人口が少ないところがあります。また人口を増やす施策としては、いろいろな方向があります。例えば、市外から人を呼び込みこむために、有名大学を誘致するなど様々考えられます。また、待機児童の解消など子育て支援を充実することで、近隣から人口が流入してきて、再度待機児童の問題が発生することなども想定されます。そうなると待機児童の問題はでてきますが、一方で人口が増えるため、成功と考えていいのでしょうか。いいまちをつくることと、人口を増やすことがどっちつかずの考え方になっている気がします。

会長 おっしゃっていただいたとおり、豊中市がいいまちだと人口流入が続けば、待機児童の問題の解決は難しくなるように思います。このような矛盾を抱えたまま進めていくのかというご指摘であったと思います。総合戦略では、人口問題を一番に考えていくということがうたわ

れています。今のご指摘についても、次の総合戦略の具体的施策でもとりあげさせてもらい議論を続けさせていただくということで、次の案件に進めてもよろしいでしょうか。

#### ●案件4 総合戦略の具体的施策への意見について

(事務局から説明)

資料：【資料4】総合戦略の重点取組項目「まちの拠点整備」について

会長 今3つのプロジェクトについて、事務局よりご説明をいただきましたが、会議の時間も限られていますから、先ほどの進捗状況の説明の際も、南部プロジェクトのKPIであるまちなみに愛着と誇りを持てると感じている人の割合が他の地域よりも低いということがありました。今回の総合戦略の役割は、人口減少に歯止めをかけるということですので、南部地域プロジェクトを中心とした議論を進めさせていただきませんかでしょうか。

各委員 異議なし

会長 それでは、意見交換をさせていただきます。

委員 先ほど小中一貫校の話もでていましたが、もう少し南部地域について、どういったポテンシャルがあるのか、地域全体についての説明をいただけませんかでしょうか。

事務局 (南部地域の地図をもとに、南部地域の交通網、公共施設の位置、学校再編の2案、南部コラボセンター案、公共用地、用途地域の説明)

会長 学校跡地の活用の検討が必要です。みなさまからご意見をいただければと思います。

委員 例えば、ニューヨークでは、屋上農園が増えてきているそうです。屋上農園や、グラウンドの一面を、保育所や、グラウンドで作った農作物を使ったレストラン、子ども食堂を作るといった視点はどうでしょうか。これから地産地消といったものがテーマとなってくると思いますが、人口減少のなかで、まちの魅力、特に南部地域の象徴的な取り組みになるのではないのでしょうか。

会長 そういったアイデアもでてくるでしょう。人口減少に歯止めをかける思い切ったアイデアはありませんでしょうか。

委員 弊社は、南部地域の工業地帯にあります。しかし、現状は用途地域が工業地域ではありますが、工場と住宅が混在している状況であります。南部地域の問題として、工業地域に工場と住宅が混在しており、住環境がよくないといったことになっています。事業者の集まりでも、豊中市として、将来的に工業地域をなくしていくのか、あるいは大阪府の中心部に近いという立地特性を活かし、産業、働く場所として、今後、南部地域を充実させていくエリアとして考えているのかという議論がされます。“まち・ひと・しごと”総合戦略とありますとおり、“しごと”が入っています。豊中市のように、都市部に近く、交通の利便性がよいという市町村は、他になかなかありません。しごとにも様々あります。例えば、工業ではなく、サービス産業の充実にもっていくべきなのか、南部地域にはどういったことがよいのか考える必要があります。今まで工業地域・準工業地域の市の方向性が不明確なままにきていますので、事業者・住民にとって、マイナスになってしまっています。

会長 東大阪市の高井田地域でも、工業地域のなかに、住宅が所々に建てられて、後から入ってきた住民が事業者に対して騒音のクレームをいうようになりました。最終的には、いくつかの事業者がそういったことであればと、撤退をするところが出てきています。今のご指摘は、人口増のためにも、明確に意図しようという話であったと思います。用途地域の変更も含め

て、どのように示していくのか、都市計画の審議会ではないので、ここで深く議論は行いませんが、当然これが示されていかないと次のステップへはいけないというご指摘はおっしゃるとおりだと思います。

事務局 今のご意見に関しますと、現在総合計画と都市計画マスタープランの見直しを同時に進めています。基盤となる土地利用の考え方のうえに、総合戦略は成り立っていないといけません。現在都市計画マスタープランを2年かけて、点検・見直ししているなかでいいますと、すでに住工混在してしまっているまちなみが東大阪市のように豊中市にもあります。例えば、これを強制的にいきなり工業地域の住民に立ち退きなさいというわけにはいきません。将来的な土地利用の明確化ははっきりさせていきたいです。今後は、住工混在は避けていきます。工業地域、準工業地域には、それにふさわしい産業を誘致していきます。今ある住工混在のところは、なんとか住工共生にもっていけないかと考えています。そのためには、いくつかの規制条例・支援条例等が必要となってきます。そういったことを都市計画マスタープランのなかで、しっかりと位置づけて取り組んでいきます。

委員 資料4の南部地域プロジェクトのところはこどもの学習課題とありますが、具体的にどういった課題か教えていただけますか。

事務局 学習課題といえますのは、南部地域に限るわけではないですが、生活に課題を抱えているご家庭や、学習環境が十分でないという課題があります。例えば、ひとり親家庭への無料の塾でありますとか、民間レベルでも取組が行われています。南部地域には比較的、このような家庭が多いという状況です。

委員 現在南部地域では、人口減少とともに少子高齢化が進んでいるということに対して、要因分析をしっかりとする必要がありますが、やはりこどもたちの学習環境というのは非常に大きいことだと思います。最近、人がどのような要因で移動するのかでいいますと、都市を選択していくうえで、教育環境が大きく影響しているとでています。もし、今後南部地域で人を増やしていくということであれば、待機児童の問題も含めて学習環境を整えていく必要があります。親が住むところを決めるときには、こどものことを考えて、こどもがいったいどういう環境で育つのか、どのような環境で学習できるのか、非常に重要な要素となります。先ほどからでています学校再編・小中一貫校の機会を活用し、教育環境の向上など教育をキーワードとしたブランディングをすることで、南部地域に人を惹きつける要因になるのではないのでしょうか。学校再編という大きなプロジェクトと捉えて、上手く活用して、こどもたちにとって、非常にいい教育環境の地域であるとアピールしさえすれば、南部地域はもっともっと盛り上がるきっかけになるのではないかと思います。

会長 小中一貫校というのは、全国的に見ても、学習能力が高まっていくというデータも伺っています。例えば、マンガのドラゴン桜では、偏差値の低い高校に予備校の講師を連れてきて、徹底的に勉強を教え、東大に合格させようとする内容です。また偏差値を40上げて慶応大学に合格したビリギャルなどもあります。こういったような、やるならば徹底的に何かをやっていくということが、インパクトになるのではないかなと思います。こういったチャンスを活かすといった機会は、そうないことです。チャンスを活かし、インパクトのあるアイデアなどをお聞かせいただければと思います。

委員 まさに、教育というのは実際に、住みたいということに直結することだと思います。個人的な住んでいての感想ですが、行政の方は、いろんな数字はお持ちだと思いますが、豊中市の

中部から北部のほうは、転勤でこられる方が一時的に住まれる人口が多く、転勤の方が入れ替わりで維持されている部分もあります。おそらく転勤された人たちの中でロコミのようなかたちで、豊中市のこの地域はなじみやすい・環境がいいと伝わっていると思います。実際、豊中市の中部や北部では非常に児童・生徒数が多いところが存在します。一方南部は各学校の人数が減っていて、問題となっています。おっしゃられたように今回学校が大きく変わるのであれば、外部から転入されようとする方が、どこに住むか選ぶときに、進行中の段階でも、全国的に注目されるようなプロジェクトが進んでいけば、魅力となると思います。学校再編とあわせて、同時に保育所や小児科など子育て・教育環境を整備し、こどもを育てやすいエリアであると打ち出せば、非常にインパクトがあると思います。今の南部地域は、住工混在や、住宅の密集・老朽化など非常に入りづらいイメージになってしまっています。南部地域と中部地域でも、駅でいうと一つ二つしか違わないのに、外からみたイメージがかなり違います。そのため、住環境まで含めたまちづくりでの打ち出しが大切になります。

委員

たしかに何かインパクトを与える必要はあります。平均的な投資になってしまうとつまらないものになってしまいます。例えば、大阪には世界を代表する有名な建築家もいらっしゃるのので、阪急電鉄と協力して、庄内駅をリニューアルして、ブランディングすることも考えられます。ワンポイントでいいので、南部地域に旗を立てる必要があります。

委員

外国にある市場のように豊南市場をリニューアルできないのでしょうか。

委員

民間視点に基づいていくと、南部地域は、名神と池田線など物流企業にとっては、魅力的でポテンシャルは十分あります。しかし、以前お客様からは、道線はいいのだが、人が集まりにくいと言われたことがあります。兵庫県からみた場合も、なぜか豊中市の南部地域を通り過ぎて、千里中央にいたり、箕面にいたり便利な地域であるのに通り過ぎてしまっています。

委員

昔は違っていました。昔は近畿から観光バスで豊南市場に買い物客が集まり、にぎわいがありました。

委員

バス路線の観点で、南部地域と中部・北部を比べますと、中部・北部は始発が5時過ぎで、終発も24時を回って入庫すると言う状況ですが、南部は始発が出る時間が遅く・終発の時間は早いです。また、中間の便数も南部は少ないです。他の区間に比べて人の流れも少ないです。

会長

今、私を入れて7人の委員がいます。7人でこういう議論をするだけでも様々なアイデアがでてきました。これをもっと世に問いかけていけば、いろんな意見を出していただける機会となり、またアイデアを持っている方もたくさんいると思います。何年先の話になるかはわかりませんが、土地が空いてくるということであれば、日本全国からコンペを行うことはできないのでしょうか。空いた土地をこういったまちづくりに活用していきたいという行政の考えに基づき、ディベロッパーの方々を中心に、日本全土、世界各地からアイデアコンペをやっていければ、もっともっといろんなアイデアがでてきそうです。こういったことが新たな活力を呼び、人口減少に歯止めをかけ、南部地域をより魅力的なものにするではないでしょうか。早い段階でやってもらうわけにはいかないのでしょうか。

委員

市民への情報発信もしていただきたいです。

- 委員            なかなか市の取組が市民に届いていないこともあります。情報発信も含めて、豊中市には、クリエイティブな市民がたくさんいらっしゃると思います。そういった方の意見も合わせて、聞いていただければ、地域のコミュニケーションが活性化すると思います。
- 委員            田園調布や世田谷など閑静な住宅街がいいまちの都市像の典型的なイメージとなっています。しかし、人の住んでいるところから限界性を切り離してしまうと、さびしいまちになってしまいます。現在の庄内駅前には、大衆芝居小屋があります。他の宝塚沿線の駅には、駅前に大衆芝居小屋はありません。南部地域では、この限界性を活かした人のにぎわいある活力のあるまち、芸術文化のまちがいいと思います。
- 事務局          小中一貫校や南部コラボについては、今年度担当課が地元をまわって、市民への説明をしています。また、秋にも説明会を実施する予定となっています。地域の方にとって学校は、地域の防災拠点、コミュニティの拠点でもあり、とても重要な場所であるというご意見もいただいています。そういったことも踏まえ、学校再編に伴う跡地については、地域の方、市民の方へ広く意見を伺うことを考えています。
- 委員            先ほどおっしゃられていたどこもかしこも同じような画一的なまちがいいとは、私も思いません。以前は、スクラップアンドビルドで、どんどん新しく作り変える時代でしたが、現在はいかに既存のものを活用するかが重要だと思います。もちろん、防災の観点も配慮していく必要がありますが、今あるものをどのように活用していくかをしっかりと考えるべきだと思います。そのなかで、先ほどからいろんな話がでてきましたが、持続可能性というところをもっと南部地域に求めてもいいのではないのでしょうか。基本的には、南部地域に持続的に住み続けてもらいたいという想いがあると思います。その意味では、小さいころから、南部地域で育つといい人材がどんどん生まれてくる、そこで育った人が外で活躍する人もいれば、南部地域で活躍する人もいるというような、地産地消の話でもしましたが、人の地産地消もあっていいのではないかと思います。そういったキーワードを押さえつつコンペをするということは一つのアイデアだと思います。
- 会長            例えば、南部地域の今後の模型が出来上がるとイメージがしやすいです。住んでいる市民の方もいくつかのアイデアがあって、そこからいろんな発想がでてきて、議論していきななかで、最初のきっかけがあれば、南部地域以外の市民も我が事のようになり、南部地域の議論が沸きあがってくるのではないのでしょうか。なかなか南部地域まで足を伸ばさないという市民にとっても、そんな機会へとなれる気がします。
- 事務局          先ほど説明させていただいたなかでも少しふれましたが、委員の皆様から南部地域を活性化させるアイデアをいただいているなかで、行政として長期的な視点でのまちづくりや、ビジョンを示していく必要があると思っています。今後南部地域に住むことで、まちがどのように変容していくのか、長い期間にはなりますが、方向性を示していく必要があると感じています。
- 会長            学校が一つ潰れたからといって、そこにぼつんと高層マンションが建てばいいということではない気がします。
- 事務局          そういうことは避けていきたいというのが市の考えです。時代の変遷のなかで、密集住宅などマイナスを環境改善して、ゼロにする取り組みに、行政は力を入れてきました。ただし、環境を改善するだけでは、人は魅力を感じて住むことはありません。南部地域に新しい価値や魅力をどのように作っていくのがポイントとなってきます。中長期的な視点でいいです



と、様々な議論を行ったなかで、行政のなかの合言葉は、南部は子どもたちを中心にするまちにしよう、子どもたちを中心とするのにどんな価値や魅力が必要となるかアイデアをいただきたいです。子どもがキーワードになると考えています。

- 会長 人口増には、子どもは欠かせません。
- 事務局 先ほど教育のブランディングの話がありました。今の南部の人口の推移で見ると 20 代は人口が増えています。しかし、30 代と子どもの世代が人口減少しています。長期的な視点でいかに子育て世帯が住み続けられる環境をつくるかを考えていくことが重要となってきます。防犯・防災を改善するなど基盤の部分にも取り組みながら、イメージを変えていくプラン作りが必要であると感じています。
- 委員 20 年後の具体的なイメージが共有できるとわかりやすいと思います。
- 委員 南部地域においても、高齢者人口が増加するなかで、地域コミュニティの活性化が重要となってきます。資料 3-1 では、地域自治組織が 5 団体から 6 団体へと増えたとありますが。
- 事務局 地域自治組織は、自治会、PTA、子ども会など様々な地域の諸団体がネットワークを作ったよりあいの小学校区の仕組みです。それぞれがミッションを持って活動を行っていますが、横に手をつなぐことで、小学校区を範囲とする地域自治協議会が 41 小学校区のなかでいくつかたちあがってきているところです。
- 委員 小学校の運動会をまわらせていただいた時期がありました。校長先生とお話をする機会がありましたが、普通運動会は土曜日に開催されるのですが、南部地域は日曜日でした。それは、子どもが小学校に通ってなくても、地域の方が楽しみにして見にこられるということでした。それがすごく印象的でした。公民館や自治会の方が、学校に非常に深く関わっていて、運動会を見にいたり、卒業式にお花をだしたりということがありました。すごく南部地域の特徴的だとも思いました。今回の学校再編の話があるとせっかく今まで築き上げてきたものが崩されることになってしまうので、築き上げてきたものを継続して行っていただきたいです。
- 事務局 学校が小中一貫で再編されますが、今ある学校は地域のコミュニティの拠点として残していきたいと考えています。
- 委員 さらに新しい学校へも関わって行ける仕組みがあればよいと思います。
- 会長 それでは、他にご意見がなければ、委員の皆様の意見を集約して、答申に反映していきたいと思えます。

## ●案件 5 その他

今後の日程について

- 事務局 次回は 9 月 7 日（水）10 時～12 時 蛍池公民館で開催いたします。開催に先立ちましては、改めて開催のご案内と資料を事務局よりお送りいたしますので、ご出席等よろしく願いいたします。

また、9 月 20 日（火）16 時から豊中市役所で、高橋会長から市長へ答申をお渡しいただく予定となっておりますので、委員の皆様もご都合がよろしければご出席よろしく願いいたします。